

早稲田大学 国語教育研究

第42集

〔特集〕 学びの保障と国語科授業づくり コロナ禍におけるみんなで創る学びの探究 学習意欲を高める指導の工夫 「読書」を中核とした授業実践から 新型コロナウイルス感染症対策に伴う分散登校期間における ハイブリッド型学習の報告 ――芥川龍之介「トロッコ」の実践から―― コロナ禍におけるICTを活用して見えた可能性と課題 ――OBSとSNSの活用を通して―― 教育改革×コロナ禍の中で踊る高校国語教育 「コロナ禍」における学習・生活の様子と授業実践例 〔シンポジウム〕 「古文教育における文法学習」ニワトリが先かタマゴが先か 〔シンポジウム〕 「古文教育における文法学習」ニワトリが先かタマゴが先か 先かタマゴが先か――をめぐって 古文の授業に対して感じていること ――アンケート結果と文法用語の問題―― 古典の授業で文法をどう扱うか ――和歌文学の可能性―― わたしたちの「社会・世界」を知るための文語文法学習 ――本を見て森を考える――	濱野天司郎 (1)
〔論文〕 痛みを読む人 ――「明暗」論―― ――成立と受容の観点に照らして―― 故事成語「臥薪嘗胆」教材考 大村はま国語教室の読書会における話し合いの指導の展開 ――実践対象の相違による指導内容の変化――	飯山 諒子 (80)
〔実践報告〕 明確な言語意識を持つて伝え合う力を高める実践研究 ――五つの学習ステップに沿った「地元大好き」町じまん大会と 「ひみつを調べて発表しよう」の交流活動を通して―― 比較を用いて文学の解釈を深める ――国際パカレアとの出を参考に―― 多様な活動を通して考えを形成する「読むこと」の授業 ――単元「東京」論から考える――の授業実践――	明比 宏樹 (113)
〔現場から〕 新型コロナウイルスの感染拡大を通して 文学に心動かされるとき 四年目に向けて コロナ禍の「こきげんよう」	加藤 晴奈 (125)
〔新刊紹介〕 権大典弘・久保彰恒・穴戸瑞希・西永香奈子・小林賢太郎・山田鮎子 幾浦裕之・原みなと・堀口紗希・海老原拓実・王培・本橋龍晃・梅村岳宏	加賀美 遥 (146)
	土屋有里子 (147)
	能地 克宜 (148)
	深澤 克俊 (149)
	美谷島秀明 (135)
	有馬 義貴 (73)
	小林 賢太 (65)
	根本 駿 (57)
	吉井美弥子 (53)
	後藤 厚 (38)
	藤倉 遼介 (46)
	櫻井 礼子 (30)
	堀 雄輝 (19)
	間下 智司 (8)

2022年3月

早稲田大学国語教育学会

The Japanese Literature and Language Education Society of Waseda University